

市民会議提言書_検討経緯

	開催日	参加人数	議題	概要
第1回	平成29年 6月5日	26名	真庭市の特徴のある環境について	グループに分かれ、左記議題について意見交換を実施した。 真庭市は、南北に長く、面積も広いいため、地勢・気候が多様であり、各地域毎に多様な物、風土が育まれている。旭川源流域もある豊富な水資源、豊かな森林資源、希少生物を含む豊富な生物を有する反面、耕作放棄地や有害鳥獣の増加、外来種の流入、魚の減少と川ばなれ等の問題が生じている。
第2回	平成29年 7月11日	26名	真庭市の自然の恵みを生かす方策について	第1回で洗い出した「真庭市の特徴のある環境」を前提に、左記議題について意見交換を実施した。 議論の結果、「真庭市は、旭川の源流域にあり、守るべきものが多くある。川全体で捉える視点、源流域の自覚が必要である」といった旭川源流域ならではの意見が出た。
第3回	平成29年 8月22日	24名	<ul style="list-style-type: none"> ・提言作成に向けた方向性の共有について ・計画冊子のデザインについて 	<p>議論の柱として下記の6つテーマを据えていくこととした。</p> <p>(安全安心な生活環境の確保) (循環型社会の形成) (再生可能エネルギーの推進) (生物多様性の保全) (環境学習の推進) (都市との交流の活性化)</p> <p>「清流旭川」をその中心に据えることについては今後、6つのテーマについて議論をすすめて、改めて検討することとした。</p> <p>また、本計画を仕上げていく上で重要なデザインについて、「見る人を意識したデザイン」と「ターゲットを絞る事の大切さ」についての意識共有を図った。</p>

第4回	平成29年 10月17日	22名	<ul style="list-style-type: none"> ①生物多様性の保全 ②循環型社会の形成 ③再生可能エネルギーの推進 	<p>各テーマに分かれて意見交換を実施した。</p> <p>【テーマ別要旨】</p> <p>①教育、特に、子どもと大人が互いに教えあう環境の構築とインパクトのあるもので訴求することが重要。</p> <p>②財政破綻や市民税増税に繋がる可能性があるという危機感をもち、行政・企業だけでなく市民もゼロエミッションを推進すべき。</p> <p>③小水力等のコミュニティ発電の普及を進めるために行政による情報提供をすること、また、真庭市らしい薪やペレット等の身近な省エネの取り組みを地道に推進すること。</p>
第5回	平成29年 11月21日	21名	<ul style="list-style-type: none"> ①生態系を活かした環境教育の推進 ②循環型社会を形成するための環境教育の推進 ③生活環境の改善 ④都市との交流の活性化 	<p>各テーマに分かれて意見交換を実施した。</p> <p>【テーマ別要旨】</p> <p>①保全する人、教育する人、利用する人、それぞれが補完しあって活動する仕組みとマルチ人材育成の必要性。</p> <p>②資源回収をはじめとする市民主体の活動の推進と活動にメリットを持たせるべきこと、学校環境教育カリキュラムの統一による共通意識の醸成、親が知る機会の提供、クリーンセンターを教育現場化。</p> <p>③自分が汚した水は下流へという意識をもつべきこと、水質検査結果など行政の情報の公表の必要性</p> <p>④水の繋がりによる上下流域連携、自然環境をいかした都市・外国人との交流、外部の認知度向上の重要性、草原などの2次的資源の保全活動（山焼き等）の推進。</p>
第6回	平成30年 1月16日	22名	提言書作成 表紙デザイン	<p>提言書は、修正意見等を踏まえ、2月中旬に市長に委員長と副委員長から提出することとした。</p> <p>表紙デザインは、若者の感性に任せて県立大生が作成していくこととした。</p>

第2次真庭市環境基本計画策定に向け環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



6月5日、久世公民館において「第1回真庭市環境市民会議」が開催されました。本会議では、第2次真庭市環境基本計画策定にむけた市民目線での提言書がまとめられます。市内外から集まった27名の委員により、今年中に全6回の会議が予定されています。

今回の会議では、委員長副委員長の選出、事務局からの説明を行った後、グループに分かれて、真庭市の特徴のある環境についてワークショップを行いました。

吉永副市長のあいさつ(要旨)

合併以後、様々な計画においてワークショップをどんどんやってきました。経験を経て、良い議論ができるようになってきました。今回テーマの中でエネルギーがあります。環境を守りつつ、未来のエネルギーをどう考えるのか、皆様の素晴らしい成果を獲得したいと思います。

岡山県立大学生のHi!Zaiゲームでアイスブレイク

ワークショップの前に県立大学の皆さんの進行で楽しく、緊張をほぐす事ができました。



※委員長・副委員長選出※

委員の互選により委員長を決定致しました

委員長...西本孝氏

副委員長...宮林英子氏、三浦菜月氏



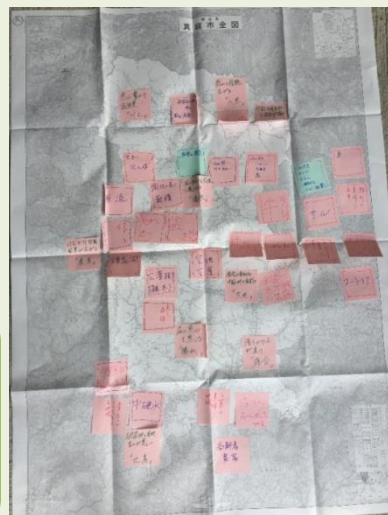
5つの班に分かれてのワークショップ

班ごとの発表で出された意見は以下のとおりです

- ・「共生」がキーワードとして出てきた
- ・真庭市は広大な面積を有している
- ・北の蒜山高原から南の北房鐘乳穴まで多様
- ・春夏秋冬魅力がある
- ・思い出や経験、動物、自然と環境
- ・清流、魚、オオサンショウウオの生息域も多い
- ・川で魚とりをしている方が多い
- ・山でもみな遊んでいた
- ・地域ごとで名産物などもでるなどネタが豊富
- ・バイオマス、森林は1つキーワードになるのでは
- ・オオサンショウウオ、温泉、観光資源としてまとめられる
- ・食べ物も多い。山葡萄、ジビエ、ワイン、チーズ等
- ・動物(シカ、キツネ、キジ)が多い
- ・森林が多いが、管理に困っている現状がある
- ・魚は以前より減っている。放流も一時的なもの
- ・耕作放棄地、ヌートリアなどの問題をどうするのか
- ・蒜山も園芸種や外来種がある
- ・継続的な環境の保護と、土地に合った計画が必要



多様な方々が集まる会議で多くの意見ができました。昔を知っている世代と今後を担う世代との貴重な意見交換の場になりました。



ワークショップ報告

(テーマ：真庭市の特徴ある環境について)

真庭市全図を用いて、子供のころの思い出、誇れるもの、貴重な自然などについて、意見交換を行いました。真庭市の素晴らしい環境を後世に受け継いでいくために、より実効性のある計画を検討していきます。

川上地域	“恵み豊かな高原美川上”(キャッチコピー) 冬季の多量の積雪、山葡萄、サクラソウ、草原景観、内海谷湿原(再生に取り組み、ミツガシワが群生し撮影スポットになった)、生きものが豊富、魚が減っている、多数の昆虫、街路樹に園芸品種を植えることによる潜在的な悪影響
八束地域	“蒜山の裾野に広がる八束”(キャッチコピー) 山陽型、山陰型の生物が共存、豊かな自然、高原、旭川減流域、釣り、川あそび、登山、トレッキング
中和地域	“神秘的な原生林と渓谷が宿る中和”(キャッチコピー) イノシシ、タヌキ、シカ、旭川の源流域、豊富な水資源、通学路は山越え、カジカガエル溪流、モリアオガエル、不動滝、里山、
湯原地域	“深山幽谷とダム湖に覆われる湯原”(キャッチコピー) 自噴の温泉、山が深い、川がきれい、オオサンショウウオ、多くのため池と3ヶ所のダム湖、安定した水資源、多数の温泉源、ダム、ヒメホタル、温泉
美甘地域	“のどかな田園風景が広がる美甘”(キャッチコピー) 広葉樹、美しい森林、のどか、時間の流れがゆっくりしていそう
勝山地域	“森の恵みを感じる勝山”(キャッチコピー) 空き地、空き家、資源としての木、歴史的環境、町並み保存地区、のれん、伝統的祭り、神庭の滝、観光地、釣り、水泳
久世地域	“清流に育まれる中国山地の玄関口久世”(キャッチコピー) 水田と木と住宅の共存、市役所、山、バイオマス、目木川(河川がきれいで魚が数多く生息)、子どもの頃によく川あそび、バイオマス発電所、カーボンニュートラル
落合地域	“清らかな水が集う落合”(キャッチコピー) 山菜が美味しい、高齢者農家、醍醐桜、イノシシ、シャクナゲ、S49.50頃、電線にとまるヤマセミが見えたが現在見られない、メタン発酵プラント
北房地域	“石灰岩地と里地里山が美しい北房”(キャッチコピー) 中硬水、青空がとてもきれい、ホタル、鍾乳洞、水田風景、水田風景、ピオーネ、マスカット、ホタル、川にオイカワの群れが見られなくなった
全体的なこと	南北が長い面積、オオサンショウウオ、ウグイスの美しい声、旭川の美味しいアユ、川エビ、牛、源流、せまい田んぼ、生物が自由に住める真庭、自然が今のままであってほしい、山菜を大切に保全していくような地域であるように、ジビエ(シカ)、南北に長いので、季節のうつろいを市内で感じれる、気温の変化、緑が多い、水温の変化、魚の減少、シカが増えた、ハクビシン、ヌートリア、イノシシ等獣害が増えた、ホトトギス、ウグイス、ホオジロ、キジ、森林、木材廃材活用、れんげ畑、山に囲まれた盆地、1日中山で虫取り、シロツメ草で冠づくり、化学的農薬による悪影響、田んぼでタニシ、かぶとえび、滝、さわがに、魚の減少(住民の川離れ)

※1つの班で旧町村毎にキャッチコピーを作っていたいたので、そちらをそのまま記載しております。

第2次真庭市環境基本計画策定に向け環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



会議では、資料や事務局説明に対し、ゴールやビジョンの明確化、体系図についての見直し、恵みだけではなく現状や課題からの議論、言葉の共有化、工程表の作成等、大変貴重でなご意見、ご提案、ご質問を活発に頂戴致しました。施策推進に向けた柱についても、市民会議で議論していくこととしました。

西本委員長のあいさつ(要旨)

先般、九州で大水害が起きた。流木のため、被害が大きくなったと思われるが、写真を見る限りでは、枝打ちされ手入れされている人工林が流されている。林業関係者が頑張っているところで災害が起きてしまった。これは予想をはるかに超えた雨が降ったため。そういうことが起きると考えて環境問題を考えることが必要。

宮林副委員長から ～上流域の役割について～

真庭市は源流域という特殊な場所に住んでいる事を認識していくことが必要。大阪の子供たちは真庭市の水を飲んで感動していた。このきれいな水を下流に送る役目があることを知ってほしい。

ワークショップ報告

「何」が「誰」に「どのような恵み」を提供しているのか、また失われたもの、活かしきれていないもの、その原因は何か、どうすれば戻ってきて、持続的に活用できるのか、について4つの班に分かれ実施致しました。

(発表概要)

- ・真庭市は河川の上流に位置しており、守るべきものが多い。
- ・温暖化の要因だけでなく、人的な要因のため、山や川の食物連鎖が崩れていると感じる。
- ・恵みだけではなく、困難をもたらす部分(森林、耕作放棄地)に対しても考えたい。
- ・自然の保護保全だけでなく、目の前にある困難に向けるべき。
- ・林業において間伐をして森が明るくなると鳥が増える。ただし、チェーンソーを使う事が環境にはどうなのか
- ・小学生に対して森づくりなど、環境勉強をするべき
- ・シカが増えている。森に対する影響。駆除しても埋設処理で活かしきれていない
- ・根本の問題は何か、旭川が変わってきている。物理的な原因もあるが、人の精神性もある。1つ1つというより、川全体でとらえていく方が問題解決になるのではいか



(委員長まとめ)

旭川を抱えている真庭市ならではの発表

第2次真庭市環境基本計画策定に向け3回目となる環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



西本委員長のあいさつ(要旨)

毎日が猛暑日。猛暑日が続く事が普通になってきた。雨が降り出すと100ミリ。これも普通になりつつある。このような事にどう対応していくのか。

夏の昼に人が歩く事がない。オニヤンマ、オオムラサキが飛び交うようになったが、追いかける子どもの姿がない。こういう体験をしなくなっているというもある意味、異常ではないか。こういったことも意識して会議を進めていきたい。

会議では、基本計画、市民会議についての意識の共有を改めて行いました。その後、6つのテーマとその大黒柱に「清流旭川」を据える事務局案について活発な議論が行われました。

委員からは象徴としてふさわしい、他の河川との違いを明確に示さねばならない、環境だけでなく文化、経済など色々な視点から特徴づけすれば面白い、6つのテーマとつながらない、旭川の源流域にいるということを意識するものにするればよいのではないか、など様々な意見をいただきました。

(委員長まとめ)

今後の会議で6つのテーマについて議論をすすめ、それを受けて大黒柱を決めていく。

デザインについて他地域事例説明(要旨) 発表:三浦副委員長

○デザインについて

アートとデザイン。アートは「表現する」。デザインは「伝える」「問題解決をする」。デザインはプロセスも大事。調査、分析、制作、フィードバック。

○他事例の紹介

広島県三次市

わかりやすく、イラストを使って配色も良い

愛知県小牧市

エコライフシートを配布したり、キッズサイトを作り、すべてフリガナをふってターゲットをしっかりと絞り込んでいる。

○まとめ

見る人を意識したデザイン。ターゲットを絞る事が大切



(まとめ)

「生物多様性の保全・再生」「循環型社会の形成」「再生可能エネルギーの推進」「生活環境の改善」「環境学習の推進」「都市との交流の活性化」の6つのテーマに分かれて議論を深めていく

第2次真庭市環境基本計画策定に向け4回目となる環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



西本委員長のあいさつ(要旨)

秋になりました。里では稲刈りが進み、柿が色づいている。山ではブナ、ミズナラが豊作。熊も安心でしょう。市民会議も4回目を迎え、実りに向かい議論を深めていく。6つの柱がたった。それぞれに議論を進めていく。そこから出てくる実りを提案、提言につなげていきましょう。

(事務局より会議を受けて)
学習と協働が大事と感じました。皆が考え、知り、理解し、行動し、結ぶことが重要です。知らせること「教育」は情報公開、提供だけでなく納得、了解、共感を。経済的利益も含め環境保全の価値・ベネフィットを示す事、市民の行動と行政の支援のマッチング基準、持続性と発展性のための事業バランス、危機管理だけでなく、地域の富を流出させないエネルギー等の自給。様々な気づきを得る場となりました。



会議では、6つのテーマの内3つのテーマ
生物多様性の保全・再生
循環型社会の形成
再生エネルギーの推進
について、グループに分かれ、現状、課題の把握、目指すべき方向性、具体的な施策等について活発な議論を行い、発表、共有する場となりました。

テーマ別議論の要旨

- 生物多様性の保全・再生
 - ・皆、興味がないから知らない。活動につなげていない
 - ・教育により、家や発表会で子どもと大人が互いに教えあう環境
 - ・インパクトとピンとくる入口
 - ・市民がそれぞれの場所で活動し、情報を共有し、市役所が下支えする
- 循環型社会の形成
 - ・何もしなければ財政破綻。ゴミ袋代、市民税が高くなるかもという危機感をもつ
 - ・知らなすぎる。それを解消する事が大事。
 - ・ゴミは資源にもなる。
 - ・行政や企業だけでなく市民のゼロエミッションを
- 再生エネルギーの推進
 - ・コミュニティ発電の普及。小水力、バイオマス、発電+蓄電
 - ・小水力は場所を選ぶ。行政はその洗い出しをしてほしい
 - ・薪やペレット。身近な取り組みを地道に広げる
 - ・省エネの推進。減らす努力も必要
 - ・使うのも出すのも市民からが重要。最後まで知る事

(まとめ)

3つのテーマに沿って現状把握・課題が共有できた。それぞれが共通しているのは市民が知らない。知らないからこそこんな生活をしてしまう。それぞれの課題に対して動かないといけない。小さな課題も市民が動く事が大事。残り3つのテーマも引き続き議論を深めていく。

第2次真庭市環境基本計画策定に向け5回目となる環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



- 会議では、4つグループ
① 生態系を活かした環境教育の推進
② 循環型社会を形成するための環境教育の推進
③ 生活環境の改善
④ 都市との交流の活性化
に分かれ、現状、課題の把握、目指すべき方向性、具体的な施策等について活発な議論を行い、発表、共有する場となりました。次回は提言作成に向けた最後の会議となります。

西本委員長のあいさつ(要旨)

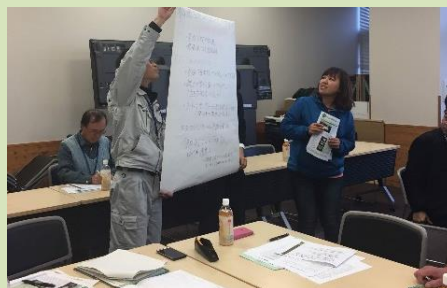
外を見ますと紅葉がきれいですね。結果があれば原因がある。夏に起因している。木々の実りも大豊作。4月から6月まで晴天が続いた。花粉が受粉しやすく、運ぶ虫も飛びやすかった。お互い一致している。市民会議でも色々な業種、世代の方がいて最初はとまどいもあったが4回目から活発に弾んだ。今回のテーマもどう結びついていくのか、活発なご意見を期待している。

テーマ別議論の要旨



「生態系を活かした環境教育の推進」

- ・保全する人、教育する人、使う人、それぞれが補完しあって活動する仕組みが重要
- ・違う分野にも携われるマルチな人材を育てていく事



「循環型社会を形成するための環境教育の推進」

- ・資源回収の推進
- ・学校環境教育の統一と共通意識
- ・親が知る機会。メリットを持たせる
- ・クリーンセンターを教育現場に
- ・やってみる事、現場を知る事



「都市との交流の活性化」

- ・水の繋がりを意識した上下流域連携・豊かな自然環境いかした都市交流
- 外部との交流が地域の見直しにも
- ・草原などの2次的資源の保全
- 山焼きなど。都市部の認知も重要
- ・日本人と外国人の交流も重要



「生活環境の改善」

- ・河川一斉清掃。高齢化で難しい
- ・水質検査18ヶ所の結果公表
- ・自分が汚した水は下流へという意識
- ・三角コーナーを無くす、コンポストの紹介、石鹼推進

第2次真庭市環境基本計画策定に向け5回目となる環境市民会議を開催

お問い合わせ先 真庭市環境課0867-42-1113



今回の議論を反映した提言書を、2月中旬に会議を代表して委員長・副委員長から市長に提出することを決めました。

また、岡山県立大学から表紙のデザインについて、大まかな方向性の説明があり、住みたくなるようなもの、教育の必要性がわかるものといったことで写真とイラストを活用したデザインとしていくことになりました。

西本委員長のあいさつ(要旨)

正月に家族と過ごす中で、10年後の社会はどういったものになっているのかということを思いめぐらせていた。市民会議では多様な世代を超えた方々と一緒に議論を進めることができ、回を重ねるごとに良い議論になっていったと思う。今後10年間のこの計画を推進し、住んでよかった、住んでみたいと思うまちになってほしい。最後にみなさまのさらなる熱い思いを提言書にとりまとめていきたい。

(委員からの意見と方向性)

- ・計画に取り組む前にという項目について。
→計画書全体を通して旭川が重要になっている事を示し、提言書の肝として最初に示えることとなった。
- ・「郷育」について
→真庭市総合教育大綱でも使用されており、本計画でも活用していくこととなった。
- ・「3R」について
→最近は、「断る」ことを入れて、「4R」が一般的となっている。本計画でも「4R」を採用することとなった。
- ・拠点施設の記載について
→「津黒いきものふれあいの里」や「オオサンショウウオ保護センター」は真庭市の貴重な財産であるので、本計画でも積極的活用を記載することとなった。
- ・参考資料について
→関連計画の中で詳細は記載することとし、本計画の中では、必要最小限にとどめることとなった。

(表紙について)

- ・市民はもちろん市外に住んでおられる方移住を考えている方にも見てもらえるようなデザインを目標にする。
- ・「住んでみたい」と「教育」を柱に考える
- ・10年間大切にしていけるものとして、今だけを考えず、学生が考える新しさ、若者の感性を重視していく。
- ・真庭市の自然を代表する写真と親しみやすく感じるイラストを入れていく。



(会議に参加して)

- ・委員のみなさんの意見を聞きながら勉強し、様々な視点をもらえた。
- ・本計画を実行できるように協力していきたい。
- ・本内容を周りに伝えていきたい。
- ・環境教育の大切さを改めて感じた